



2021年8月4日

各 位

会 社 名 株式会社 P A L T E K  
 代 表 者 名 代表取締役社長 高 橋 忠 仁  
 (コード番号 7587 東証第二部)  
 問 い 合 わ せ 先 常務取締役<sup>ホ</sup>レシヨナルサービス  
 ティビシヨン本部長 井上博樹  
 (TEL 045-477-2000)

## 2021年12月期第2四半期（累計）連結業績予想値と決算値との差異 に関するお知らせ

2021年4月9日に公表した2021年12月期第2四半期（累計）連結業績予想値と本日公表の決算の実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### ●業績予想値と実績値の差異について

2021年12月期第2四半期（累計）連結業績予想値と実績値の差異（2021年1月1日～2021年6月30日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	15,000	250	125	85	7.76
今回実績値（B）	16,352	407	225	131	12.04
増減額（B－A）	1,352	157	100	46	－
増減率（％）	9.0	62.9	80.7	55.1	－
（ご参考）前期第2四半期実績 （2020年12月期第2四半期）	15,874	225	153	143	13.11

#### ●第2四半期（累計）連結業績予想数値と実績値の差異の理由

第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は第2四半期において半導体事業で海外の携帯情報端末、ファクトリーオートメーション向けメモリやパソコン向けアナログICなどが引き続き堅調に推移したことにより想定を上回って推移しました。

営業利益につきましては、売上高増加に伴い売上総利益が増加することに加え、第2四半期においてドル円相場が円安基調で進行したことにより、仕入値引ドル建債権の評価額の増加を含む為替レート変動によるプラス影響が143百万円発生し売上総利益の押し上げ要因となったことから、営業利益は想定を上回って推移しました。

経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、営業利益の増加に伴い想定を上回って推移しました。

この仕入値引ドル建債権は、一部の主要仕入先との取引方法において発生します。量産案件において特価を提示する場合、実際の仕入値の減額ではなく、当社がお客様に製品を出荷したことを仕入先に報

告することによって、仕入先から仕入値の減額相当分の値引債権が発行されます。この値引債権がドル建であるため、為替相場の変動によりドル建債権の評価額が増減します。評価額の増減については、半導体製品の値決め時の為替レートと納入時の為替レートの差により発生するため、ドル円相場が円安に進行する際には評価額がプラスになり、特に為替変動が急速である場合には評価額の増減幅が大きくなります。

なお、通期連結業績予想につきましては、世界的な半導体需要の増加により半導体製品の調達期間が大幅に長期化しており、お客様の希望納期に沿う半導体製品の販売が困難な状況が継続していることから、下期における半導体事業の売上高が減少することが見込まれるため、2021年12月期通期連結業績予想は2021年4月9日に公表した見通しから変更しておりません。

※ 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

以 上